



Hewlett Packard
Enterprise

HPE Operations Agent

ソフトウェア バージョン: 12.01

Windows®, HP-UX, Linux, Solaris, AIX

ライセンス ガイド

ドキュメント リリース日: 2017 年 8 月

ソフトウェア リリース日: 2017 年 8 月

ご注意

保証について

Hewlett Packard Enterprise Development Company, L.P. 製品およびサービスに関する保証は、これらの製品およびサービスに付随する明示的保証書に記載された内容に限定されます。本文書には、追加の保証を規定している箇所はありません。HPE は、本文書に含まれる技術的または編集上の誤りや遺漏に対して、責任を負わないものとします。

この情報は予告なしに変更されることがあります。

法律上の権利の制限について

本書で取り扱っているコンピュータソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、HPE から使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアのドキュメント、および商用アイテムの技術データは、ベンダの標準商用ライセンスに基づいて米国政府にライセンスが付与されます。

著作権について

© Copyright 2016 Hewlett Packard Enterprise Development LP

商標について

Adobe® は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の商標です。

Microsoft® および Windows® は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

UNIX® は The Open Group の登録商標です。

この製品には、汎用圧縮ライブラリ「zlib」インターフェイス (Copyright © 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler) が含まれます。

ドキュメントの更新情報

本書のタイトルページには、以下の識別情報が含まれています。

- ソフトウェアバージョン番号。ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日付。ドキュメントがアップデートされるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日付。ソフトウェアのこのバージョンのリリース日付を示します。

最新のアップデートを確認したり、ドキュメントの最新エディションを使用しているかどうかを確認したりするには、以下の URL にアクセスしてください。 <https://softwaresupport.hpe.com>

このサイトでは、HPE Passport への登録とサインインが必要となります。HPE Passport ID を登録するには、次の URL にアクセスしてください。 <https://hpp12.passport.hpe.com/hppcf/createuser.do>

または、HPEソフトウェアサポートページ上部の登録リンクをクリックしてください。

また、適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいた場合は、アップデート版または新版をお送りします。詳細は、正規販売代理店にお問い合わせください。

サポート

次の HPE ソフトウェアサポート オンラインの Web サイトにアクセスしてください。 <https://softwaresupport.hpe.com>

この Web サイトには HPE ソフトウェアの製品、サービス、サポートに関する詳細情報とコンタクト先が示してあります。

HPE ソフトウェアサポート オンラインでは、セルフソルブ技術情報を提供しています。ビジネスの管理に必要なインタラクティブな技術サポート ツールに、すばやく効率的にアクセスすることができます。サポート Web サイトを使用することにより、重要なサポート カスタマとして以下のメリットを受けることができます。

- 興味のある知識に関するドキュメントを検索する
- サポート ケースおよび機能強化 要求を提出し追跡する
- ソフトウェアのパッチをダウンロードする
- サポート 契約を管理する
- HPE サポートの連絡先を調べる
- 利用可能なサービスに関する情報を確認する
- 他のソフトウェア カスタマと議論を始める
- ソフトウェアトレーニングに関して調査し登録する

ほとんどのサポート領域では、HPE Passport ユーザーとして登録し、サイン インする必要があります。また、多くの場合、サポート契約が必要となります。HPE Passport ID を登録するには、以下の Web サイトにアクセスしてください。

<https://hpp12.passport.hpe.com/hppcf/createuser.do>

アクセスレベルの詳細については、次の URL にアクセスしてください。

<https://softwaresupport.hpe.com/web/softwaresupport/access-levels>

HPE Software Solutions Now は、HPSWのソリューションと統合に関するポータル Web サイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHPE製品ソリューションを検索したり、HPE 製品間の統合に関する詳細なリストやITILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトの URL は **<https://softwaresupport.hpe.com/>** です。

目次

第1章: はじめに	6
評価ライセンス	6
延長ライセンス	6
恒久ライセンス	6
HPE Operations Agent 12.01 の新しい機能	7
評価ライセンスまたは恒久ライセンスの設定	8
第2章: HPE Operations Agent 12.01 のLTU	9
HP Operations OS Inst Adv SW LTU	9
HP Operations OS Inst Performance LTU	10
HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU	10
HP Ops OS Inst Perf to OS Inst Adv LTU	11
Glance Software LTU	12
Glance Pak Software LTU	13
各 LTU で使用可能なアドイン モジュール	13
LTU の比較表	14
第3章: プロファイル ファイルを使用したライセンスの適用	16
プロファイル ファイルを使用したスタンドアロン ノード へのライセンスの適用	16
リモートの HPOM for Windows からのプロファイル ファイルを使用したライセンスの適用	17
リモートの HPOM for UNIX/Linux からのプロファイル ファイルを使用したライセンスの適用	18
第4章: 評価ライセンスまたは恒久ライセンスの適用	20
手動によるノード への適用	20
ライセンスの詳細の例	22
管理 サーバーからの一括適用	22
HPOM for Windows コンソールからの適用	22
UNIX/Linux 9.xx の HPOM コンソールからの適用	23
HPOM for UNIX 8.35 コンソールからの適用	23
評価ライセンスの有効期限の延長	24
アラートの生成	26
第5章: HPE Operations Agent 12.01 へのアップグレード	28

第6章: 恒久ライセンスの削除	30
第7章: 既存のLTUの変更	31
例 1	31
例 2	31
ドキュメントのフィードバックを送信	33

第1章: はじめに

インストールの種類に基づいて、HPE Operations Agent は、次のいずれかのタイプのライセンスで使用できます。

- 評価ライセンス
- 延長ライセンス
- 恒久ライセンス

oalicense ユーティリティは、ライセンスを有効にするために役立ちます。また、oalicense ユーティリティを使用すると、一方のライセンスタイプからもう一方に移行できます。

評価ライセンス

スタンドアロンノードに製品をインストールする場合、ノードでライセンスを設定することで HPE Operations Agent が使用可能となります。デフォルトライセンスは「なし」に設定されています。評価ライセンスでは、HPE Operations Agent のすべてのモジュールとコンポーネントが 60 日間有効になります。評価ライセンスは 60 日後に有効期限が切れ、製品は無効になります。製品の使用を継続するには、恒久ライセンスを適用するか、または評価ライセンスを延長します。

延長ライセンス

評価ライセンスの有効期限を延長すると、HPE Operations Agent を評価モードでより長期間使用できます。評価ライセンスを延長すると、この LTU で提供される機能をさらに 60 日使用することができます。評価ライセンスの延長は 2 回まで可能です。評価ライセンスを 3 回延長しようとする、ライセンスの最大延長回数に達していることを示すエラーメッセージが表示されます。

恒久ライセンス

HP Operations Agent の恒久ライセンスには、特定の期限はありません。このライセンスを使用する場合、必要に応じて、利用可能な**使用権** (LTU: Licenses to Use) から選択できます。

HPE Operations Agent 12.01 は、次のアドインモジュールにより、リアルタイム診断と監視機能を提供します。

- リアルタイム メトリック アクセス (RTMA) - リアルタイム ベースのシステム パフォーマンス メトリックへのアクセスを可能にします。cpsht ユーティリティを使用して、リモート マシンのパフォーマンス メトリックをリアルタイムで監視できます。これは、RTMA のコンポーネントにあります。
- リアルタイム計測 (RTM) - HP Performance Manager 9.00 の [Diagnostic View (診断ビュー)] タブで表示される豊富なインターフェイスを使用して、システムのパフォーマンス メトリックをリアルタイムに監視できます。RTM 機能は hpsensor を通じて提供されます。
- GlancePlus ソフトウェア - グラフィカルな表形式で表されるデータを使用して、システムのパフォーマンスをリアルタイムに監視できます。

異なる LTU を使用して、上記のすべてのモジュールを使用することも、それらを組み合わせて使用することもできます。LTU については、「[HPE Operations Agent 12.01 の LTU](#)」を参照してください。

HPE Operations Agent 12.01 の新しい機能

次の表で、各シナリオに使用する新しいライセンス ポリシーを示します。

表 1: 新しいライセンスの動作

シナリオ	評価ライセンス	恒久ライセンス	動作するコンポーネント
HPE Operations Agent をスタンドアロン ノードにインストール。	<ul style="list-style-type: none">なし (デフォルト)。必要に応じて、プロファイル ファイルにライセンスを設定します。それぞれの LTU は評価に設定されています。	<ul style="list-style-type: none">なし (デフォルト)。必要に応じて、プロファイル ファイルにライセンスを設定します。それぞれの LTU は恒久に設定されています。	「LTU の比較表」(14ページ) を参照してください。
HPE Operations Agent を HPOM コンソールからリモートにインストール。	<ul style="list-style-type: none">なし (デフォルト)。必要に応じて、プロファイル ファイルにライセンスを設定します。それぞれの LTU は評価に設定されています。	<ul style="list-style-type: none">HP Operations OS Inst Adv SW LTU (デフォルト)。必要に応じて、プロファイル ファイルにライセンスを設定します。それぞれの LTU は恒久に設定されています。	「LTU の比較表」(14ページ) を参照してください。
ノードの 11.xx バージョンから HPE Operations	<ul style="list-style-type: none">12.01 バージョンのインストール後も、既存の評価ライセンスが動作	<ul style="list-style-type: none">12.01 バージョンのインストール後も、既存の恒久ライセンスが動作	「LTU の比較表」(14ページ) を参照してくだ

表 1: 新しいライセンシングの動作 (続き)

シナリオ	評価ライセンス	恒久ライセンス	動作するコンポーネント
Agent 12.01 にアップグレード。	します。 <ul style="list-style-type: none">必要に応じて、プロファイルファイルにライセンスを設定します。それぞれのLTUは評価に設定されています。	します。 <ul style="list-style-type: none">必要に応じて、プロファイルファイルにライセンスを設定します。それぞれのLTUは恒久に設定されています。	さい。

評価ライセンスまたは恒久ライセンスの設定

評価ライセンスまたは恒久ライセンスは、以下の方法で設定できます。

- **スタンドアロンノードまたは管理サーバーからの適用**: この方法では、LTUごとに `oalicense` コマンドを使用し、ノードの恒久ライセンスを手動で有効にします。

スタンドアロンノードに HPE Operations Agent 12.01 をインストールすると、ライセンスのデフォルト設定はなしとなります。ライセンスを適用した場合にのみ、運用監視コンポーネントとパフォーマンス収集コンポーネントが開始されます。基本的な HPE Operations Agent プロセスは、ライセンスを設定しなくてもノードで機能します。HPOM が存在しない環境でスタンドアロンサーバーに HPE Operations Agent をインストールすると、基本的な HPE Operations Agent プロセスのみが有効となります。

HPOM コンソールを使用してリモートインストールを行うと、恒久ライセンスがノードで有効になります。

詳細情報は、「[評価ライセンスまたは恒久ライセンスの適用](#)」を参照してください。

- **プロファイルファイルの使用**: この方法では、プロファイルファイルの利用可能な LTU リストから、恒久ライセンスまたは評価ライセンスを有効にできます。HPE Operations Agent のインストールを開始する前に、テキストファイルまたは設定ファイルで LTU を指定します。詳細情報は、「[プロファイルファイルを使用した評価ライセンスまたは恒久ライセンスの適用](#)」を参照してください。

第2章: HPE Operations Agent 12.01 の LTU

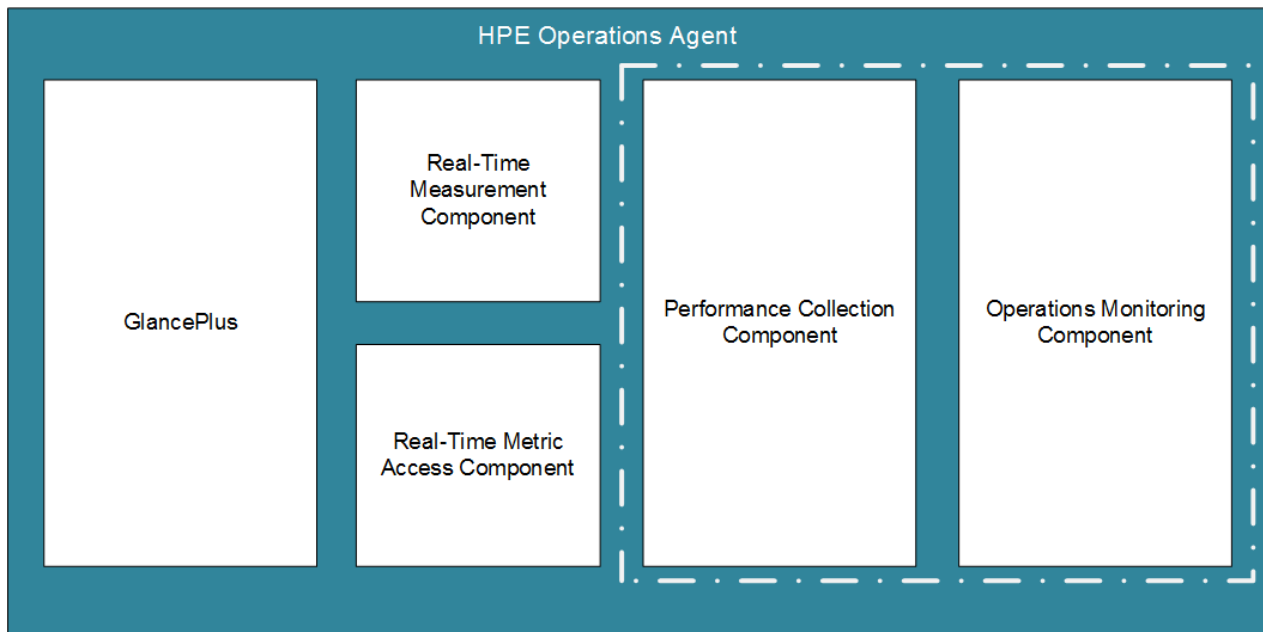
HPE Operations Agent 製品 の次のいずれかの使用ライセンス (LTUs) を適用できます。

- HP Operations OS Inst Adv SW LTU
- HP Operations OS Inst Performance LTU
- HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU
- HP Ops OS Inst Perf to OS Inst Adv LTU
- Glance Software LTU
- Glance Pak Software LTU

HP Operations OS Inst Adv SW LTU

この LTU では、RTM、RTMA、GlancePlus 以外 の HPE Operations Agent のコンポーネントをすべて使用できます。

図 1: HP Operations OS Inst Adv SW LTU で有効になるコンポーネント



追加のバージョン

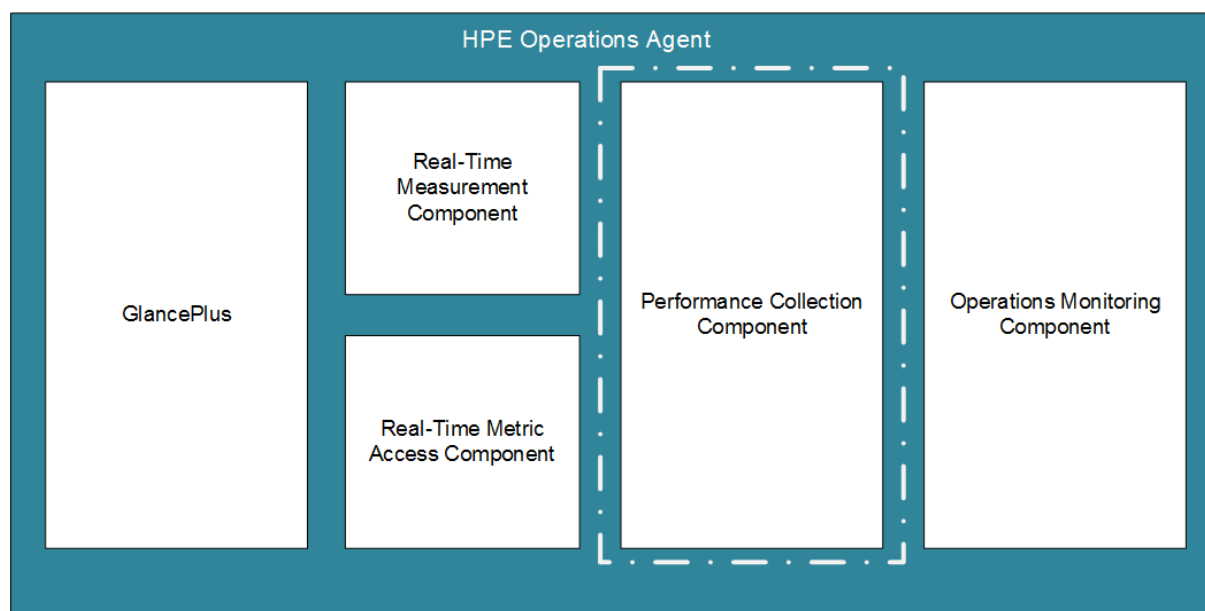
HP Operations OS Inst Adv SW LTU は次の追加バージョンで使用できます。

- **HP Operations OS Inst Adv NP FO SW LTU:** フェールオーバー クラスタ設定で実行されているシステムを監視する場合、クラスタ内のすべてのノードに HPE Operations Agent をインストールする必要があります。HP Operations OS Inst Adv NP FO SW LTU は、アクティブではないクラスタ内のノードでも使用できます。この LTU は、恒久モードのみで使用できます。評価モードで使用することはできません。
- **HP Operations OS Inst Adv NP DV SW LTU:** (計画や評価の目的で) テスト システムに HPE Operations Agent をインストールする場合、HP Operations OS Inst Adv NP DV SW LTU を使用します。この LTU は、恒久モードのみで使用できます。評価モードで使用することはできません。

HP Operations OS Inst Performance LTU

この LTU では、HPE Operations Agent のパフォーマンス収集コンポーネントのコンポーネントのみを使用できます。この LTU では、スタンドアロン システムのパフォーマンスを監視できます。

図 2: HP Operations OS Inst Performance LTU で有効になるコンポーネント



HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU

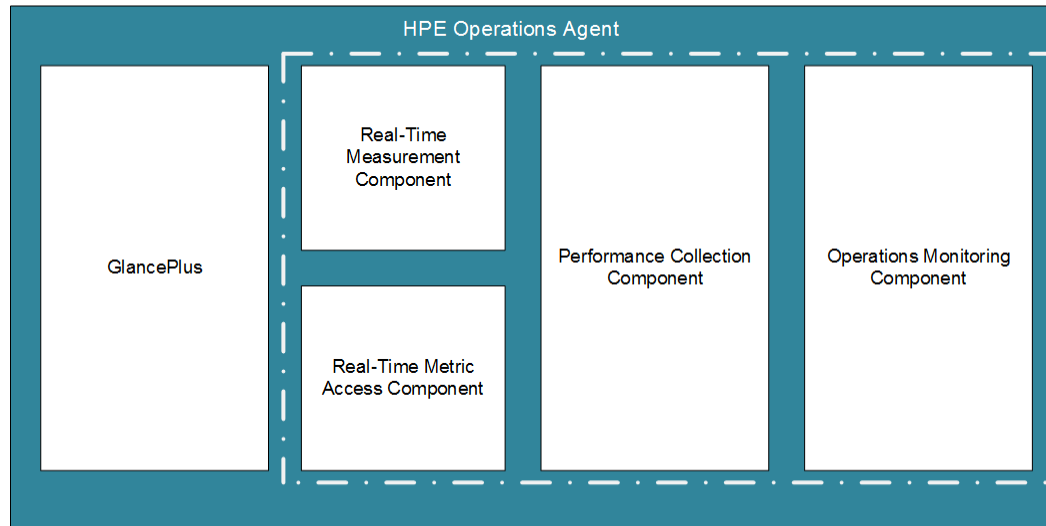
この LTU では、RTM コンポーネントと RTMA コンポーネントを含む HPE Operations Agent の機能をすべて使用できますが、GlancePlus ソフトウェアは含まれません。この LTU を適用したら、HPE Operations Agent 12.01 を HP Performance Manager 9.00 に統合して、HPE Operations Agent が複数のノードから収集するリアルタイムのシステムデータを、HP Performance Manager 9.00 の [Diagnostic View (診断ビュー)] タブで表示できます。さら

に、cpsht ユーティリティを使用して、さまざまなノードから HPE Operations Agent が収集するリアルタイムのシステム データを表示 できます。

この LTU を適用する前に、HP Operations OS Inst Adv SW LTU がすでにノードに適用されていることを確認してください。

図 3 は、HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU で有効になるコンポーネントを赤枠で示しています。

図 3: HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU で有効になるコンポーネント



追加のバージョン

HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU は次の追加バージョンで使用できます。

- **HP Ops OS Inst to Realtime Inst NP FO LTU:** フェールオーバー クラスタ設定で実行されているシステムを監視する場合、クラスタ内のすべてのノードに HPE Operations Agent をインストールする必要があります。HP Ops OS Inst to Realtime Inst NP FO LTU は、アクティブではないクラスタ内のノードでも使用できます。この LTU は、恒久モードのみで使用できます。評価モードで使用することはできません。
- **HP Ops OS Inst to Realtime Inst NP DV LTU :** (計画や評価の目的で) テスト システムに HPE Operations Agent をインストールする場合、HP Ops OS Inst to Realtime Inst NP DV LTU を使用します。この LTU は、恒久モードのみで使用できます。評価モードで使用することはできません。

HP Ops OS Inst Perf to OS Inst Adv LTU

この LTU は、スタンドアロン サーバーにある既存の HP Operations OS Inst Performance LTU を HP Operations OS Inst Adv SW LTU にアップグレードして、RTM、RTMA、GlancePlus のコンポーネント以外の HPE Operations Agent の機能を使用可能にします。この LTU は、恒久モードのみで使用できます。評価モードで使用することはできません。

追加のバージョン

HP Ops OS Inst Perf to OS Inst Adv LTU は次の追加バージョンで使用できます。

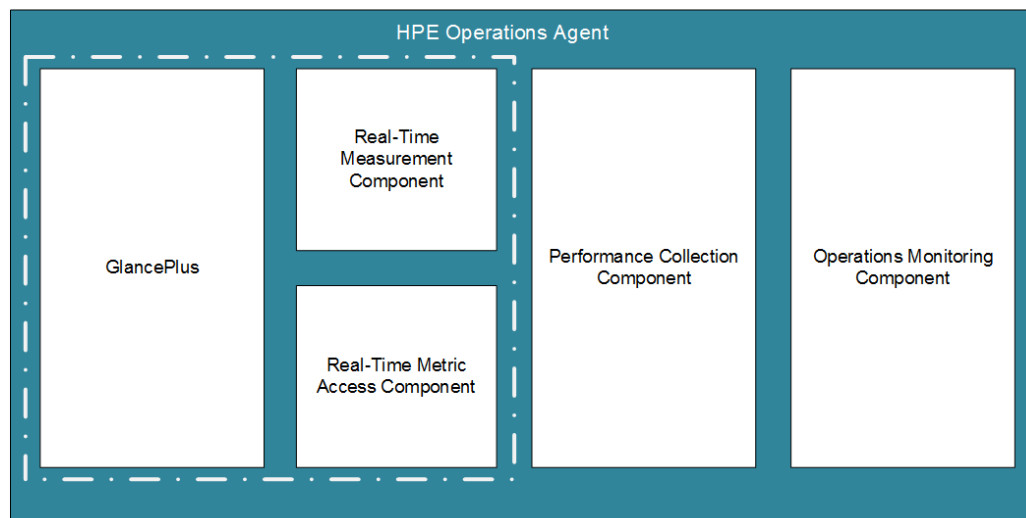
- **HP Perf to OS Inst Adv Upg Software NP FO SW LTU:** フェールオーバー クラスタ設定で実行されているシステムを監視する場合、クラスタ内のすべてのノードに HPE Operations Agent をインストールする必要があります。HP Perf to OS Inst Adv Upg Software NP FO SW LTU は、アクティブではないクラスタ内のノードでも使用できます。この LTU は、恒久モードのみで使用できます。評価モードで使用することはできません。
- **HP Perf to OS Inst Adv Upg Software NP DV SW LTU:** (計画や評価の目的で) テストシステムに HPE Operations Agent をインストールする場合、HP Perf to OS Inst Adv Upg Software NP DV SW LTU を使用します。この LTU は、恒久モードのみで使用できます。評価モードで使用することはできません。

Glance Software LTU

注: GlancePlus ソフトウェアは UNIX/Linux プラットフォームでのみサポートされているため、この LTU は UNIX/Linux ノードにのみ適用できます。

この LTU は、GlancePlus ソフトウェアと RTMA コンポーネントのみをノードで有効にします。この LTU のみをノードで有効にする場合、GlancePlus ソフトウェアと RTMA コンポーネントのみをノードで使用できます。この LTU を使用すると、cpsh ユーティリティを使用して、さまざまなノードから HPE Operations Agent が収集するリアルタイムのシステムデータを表示できます。HPE Operations Agent のその他の標準機能は使用できません。

図 4: Glance Software LTU で有効になるコンポーネント

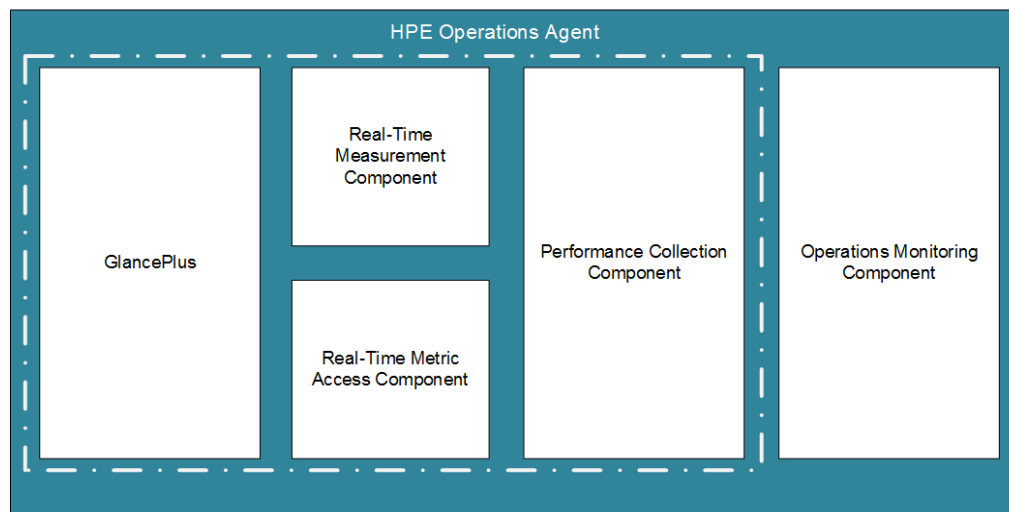


Glance Pak Software LTU

注: GlancePlus ソフトウェアは UNIX/Linux プラットフォームでのみサポートされているため、この LTU は UNIX/Linux ノードにのみ適用できます。

この LTU では、GlancePlus ソフトウェアと RTMA コンポーネント、および HPE Operations Agent のパフォーマンス収集コンポーネントのコンポーネントのみを使用できます。この LTU を使用すると、cpsh ユーティリティを使用して、さまざまなノードから HPE Operations Agent が収集するリアルタイムのシステムデータを表示できます。

図 5: Glance Pak Software LTU で有効になるコンポーネント



各 LTU で使用可能なアドイン モジュール

評価ライセンスでは、HPE Operations Agent と RTM コンポーネント、RTMA コンポーネント、GlancePlus ソフトウェアをノードで有効にできます。ただし、インストール後 60 日以内に恒久ライセンスを適用しないと(または評価ライセンスを延長しないと)、HPE Operations Agent (および RTM、RTMA、GlancePlus) は使用できなくなります。6 種類の異なる LTU から選択できます。これらのいずれかの LTU を使用すると、HPE Operations Agent をアドイン モジュール (RTM、RTMA、GlancePlus) と組み合わせてノードで有効にできます。

表 2 は、HPE Operations Agent の各 LTU で使用可能なアドイン モジュールを示しています。

表 2: 各 LTU でのアドイン モジュール

LTU	GlancePlus ソフトウェア	RTM	RTMA
HP Operations OS Inst Adv SW LTU	不可	不可	不可
a) HP Operations OS Inst Performance LTU	不可	不可	不可
HP Ops OS Inst Perf to OS Inst Adv LTU	不可	不可	不可
HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU	不可	可能	可能
b) Glance Pak Software LTU	可能	可能	可能
c) Glance Software LTU	可能	可能	可能

a) HP Operations OS Inst Performance LTU のみを有効にする場合、パフォーマンス収集コンポーネントのコンポーネント以外の HPE Operations Agent の標準機能は使用できません。

b) Glance Pak Software LTU のみを有効にする場合、パフォーマンス収集コンポーネント、GlancePlus ソフトウェア、RTM コンポーネント、および RTMA コンポーネント以外に、HPE Operations Agent の標準機能は使用できません。

c) Glance Software LTU のみを有効にする場合、GlancePlus ソフトウェア、RTM コンポーネント、および RTMA コンポーネント以外に、HPE Operations Agent の標準機能は使用できません。

LTU の比較表

表 3 は、各 LTU で使用できる HPE Operations Agent のコンポーネントを示しています。

表 3: LTU の比較表

LTU とコンポーネント	運用監視コンポーネント	パフォーマンス収集コンポーネント	RTM	RTMA	Glance Plus
HP Operations OS Inst Adv SW LTU	可能	可能	X	X	X
HP Ops OS Inst to	可能	可能	可能	可能	X

表 3: LTU の比較表 (続き)

LTU とコンポーネント	運用監視コンポーネント	パフォーマンス収集コンポーネント	RTM	RTMA	Glance Plus
Realtime Inst LTU					
HP Operations OS Inst Performance LTU	X	可能	X	X	X
HP Ops OS Inst Perf to OS Inst Adv LTU	可能	可能	X	X	X
UNIX/Linux ノードのみ。Glance Software LTU	X	X	可能	可能	可能
UNIX/Linux ノードのみ。Glance Pak Software LTU	X	可能	可能	可能	可能

第3章: プロファイルファイルを使用したライセンスの適用

スタンドアロン ノードまたは、HPOM 管理 サーバーからのリモート インストールにプロファイル ファイルを使用することで、評価ライセンスまたは恒久ライセンスのいずれかを設定することができます。インストールを開始し、必要なライセンスを有効にする前に、テキスト ファイルまたは設定ファイルで LTU を指定します。

プロファイル ファイルの詳細情報は、インストールガイドの「プロファイル ファイルを使用した HPE Operations Agent のインストール」を参照してください。

プロファイル ファイルを使用したスタンドアロン ノードへのライセンスの適用

Windows ノードまたは UNIX/Linux ノード へのインストールを開始する前にテキスト ファイルにライセンス要件を指定しておく、インストールはインストール プロセスにそのファイルを使用します。ライセンスのタイプを指定して、インストールを開始できます。

プロファイル ファイルを使用して評価ライセンスまたは恒久ライセンスをスタンドアロン ノードに適用するには、次の手順を実行します。

1. 管理者 権限を持つシステムにログオンします。
2. テキスト ファイルを開いて、次のリストから要件に合わせて LTU を追加します。
 - `set eaagt.license:HP_Operations_OS_Inst_Adv_SW_LTU=PERMANENT` または `EVALUATION`
 - `set eaagt.license:Glance_Software_LTU=PERMANENT` または `EVALUATION`
 - `set eaagt.license:HP_Ops_OS_Inst_to_Realtime_Inst_LTU=PERMANENT` または `EVALUATION`
 - `set eaagt.license:HP_Operations_OS_Inst_Performance_LTU=PERMANENT` または `EVALUATION`
 - `set eaagt.license:ALL=PERMANENT/EVALUATION`プロファイル ファイルを使用してインストールを開始する前にテキスト ファイルのリストに記載された LTU のみを設定できます。

注: 記載された LTU を要件に合わせて追加する必要があります。

RTM、RTMA、GlancePlus ではなく、HP Operations Agent のすべてのコンポーネントを使用する必要がある場合は、テキスト ファイルに `set eaagt.license:HP_Operations_OS_Inst_Adv_SW_LTU=PERMANENT or EVALUATION` のみを追加します。

リストに記載されているすべてのライセンスを使用する必要がある場合は、`set eaagt.license:ALL=PERMANENT/EVALUATION` をテキスト ファイルに追加します。インストールを開始する前にテキスト ファイルのリストに記載された LTU のみを設定できます。

LTU については、「[HP Operations Agent の LTU](#)」を参照してください。

3. テキスト ファイルを保存します。
4. HPE Operations Agent のインストールメディアのルート ディレクトリから、以下のコマンドを実行します。

Windows ノードの場合

```
cscript oainstall.vbs -install -agent -agent_profile <path_of_profile_file>/<profile file name>
```

または

```
cscript oainstall.vbs -i -a -agent_profile <path_of_profile_file>/<profile file name>
```

UNIX または Linux ノードの場合

```
./oainstall.sh -install -agent -agent_profile <path_of_profile_file>/<profile file name>
```

または

```
./oainstall.sh -i -a -agent_profile <path_of_profile_file>/<profile file name>
```

リモートの HPOM for Windows からのプロファイルファイルを使用したライセンスの適用

インストールを開始する前に、任意の設定を設定ファイルに指定し、インストール中にその設定ファイルを使用することができます。ライセンスのタイプを指定して、インストールを開始できます。

評価ライセンスまたは恒久ライセンスを HPOM for Windows から適用するには、以下の手順に従います。

1. 管理者として、管理サーバーにログオンします。
2. 管理サーバーの以下の場所から、サンプルの設定ファイルを取得します。
`%ovsharredir%\conf\PMAD\agent_install_defaults.cfg.sample`

3. agent_install_default.cfg.sample を agent_install_default.cfg として同じ場所に保存します。
4. agent_install_defaults.cfg ファイルをテキスト エディタで開いて、次のリストから要件に合わせて LTU を追加します。

[eaagt.license]

- HP_Operations_OS_Inst_Adv_SW_LTU=PERMANENT または EVALUATION
- Glance_Software_LTU=PERMANENT または EVALUATION
- HP_Ops_OS_Inst_to_Realtime_Inst_LTU=PERMANENT または EVALUATION
- HP_Operations_OS_Inst_Performance_LTU=PERMANENT または EVALUATION
- ALL=PERMANENT または EVALUATION

プロファイルファイルを使用してインストールを開始する前にテキスト ファイルのリストに記載された LTU のみを設定できます。

注: LTU を要件に合わせて追加する必要があります。

RTM、RTMA、GlancePlus ではなく、HP Operations Agent のすべてのコンポーネントを使用する必要がある場合は、テキスト ファイルに set eaagt.license:HP_Operations_OS_Inst_Adv_SW_LTU=PERMANENT or EVALUATION のみを追加します。

すべてのライセンスを選択する場合は、テキスト ファイルに set eaagt.license:ALL=PERMANENT または EVALUATION を追加します。

LTU については、「[HPE Operations Agent の LTU](#)」を参照してください。

5. ライセンスの設定を更新した後は、HPOM コンソールからリモートで、またはコマンドラインを使用して HPE Operations Agent のインストールを開始します。詳細については、『HPE Operations Agent インストールガイド、バージョン 12.01』を参照してください。

リモートの HPOM for UNIX/Linux からのプロファイルファイルを使用したライセンスの適用

インストールを開始する前に、任意の設定を設定ファイルに指定し、インストール中にその設定ファイルを使用することができます。ライセンスのタイプを指定して、インストールを開始できます。

注: プロファイルファイルを使用している場合は、UNIX/Linux の HPOM に修正プログラム QCCR1A138587 をインストールする必要があります。この修正プログラムの入手方法については、HP のサポートにお問い合わせください。HPOM for Windows を使用している

場合は、追加の修正プログラムは必要ありません。

評価ライセンスまたは恒久ライセンスを HPOM for UNIX/Linux から適用するには、以下の手順に従います。

1. root 権限を使用して、HPOM for UNIX/Linux にログオンします。
2. 管理サーバーの以下の場所から、サンプルの設定ファイルを取得します。
/etc/opt/OV/share/conf/OpC/mgmt_sv/bbc_inst_defaults.sample.
3. bbc_inst_defaults.sample ファイルを bbc_inst_defaults ファイルとして同じ場所に保存します。
4. bbc_inst_defaults ファイルをテキスト エディタで開いて、次のリストから要件に合わせて LTU を追加します。

[eaagt.license]

- HP_Operations_OS_Inst_Adv_SW_LTU=PERMANENT または EVALUATION
- Glance_Software_LTU=PERMANENT または EVALUATION
- HP_Ops_OS_Inst_to_Realtime_Inst_LTU=PERMANENT または EVALUATION
- HP_Operations_OS_Inst_Performance_LTU=PERMANENT または EVALUATION
- ALL=PERMANENT/EVALUATION (すべての LTU を使用する場合はこのオプションを使用)

注: LTU を要件に合わせて追加する必要があります。

RTM、RTMA、GlancePlus ではなく、HPE Operations Agent のすべてのコンポーネントを使用する必要がある場合は、テキスト ファイルに set eaagt.license:HP_Operations_OS_Inst_Adv_SW_LTU=PERMANENT or EVALUATION のみを追加します。

すべてのライセンスを選択する場合は、set eaagt.license:ALL=PERMANENT/EVALUATION をテキスト ファイルに追加します。

LTU については、「[HP Operations Agent の LTU](#)」を参照してください。

5. ライセンスの設定を更新した後は、HPOM コンソールからリモートで、またはコマンドラインを使用して HPE Operations Agent のインストールを開始します。詳細については、『HPE Operations Agent インストールガイド、バージョン 12.01』を参照してください。

第4章：評価ライセンスまたは恒久ライセンスの適用

インストールの種類に基づいて、評価ライセンスまたは恒久ライセンスをノードに設定する必要があります。評価ライセンスはインストール後 60 日間有効になり、期間終了後は製品（およびすべてのアドイン モジュール）はそのノードでの動作を停止します。製品を使用し続けるには、ノードで恒久ライセンスを有効にする必要があります。

手動によるノードへの適用

恒久ライセンスまたは評価ライセンスをスタンドアロンの HPE Operations Agent ノードに適用するには、次の手順を実行します。

1. ノードに HPE Operations Agent をインストールします。

HPE Operations Agent を使用するには、評価ライセンスまたは恒久ライセンスを設定する必要があります。

ヒント: HPOM 管理環境にノードがある場合、`-s` オプションおよび `-cs` オプションを使用して HPE Operations Agent をインストールし、ノードの管理サーバーを設定できます。これらのオプションを使用すると、HP Operations OS Inst Adv SW LTU を有効にするためのライセンスツールが起動します。

2. ライセンスを適用するには、コマンド プロンプト（シェル）に進みます。
3. 目的の LTU の適切なライセンスを有効にするには、次を実行します。
 - HP Operations OS Inst Adv SW LTU のライセンスを有効にするには、次のコマンドを実行します。

```
oalicense -set -type EVALUATION "HP Operations OS Inst Adv SW LTU"
```

このコマンドにより、HPE Operations Agent の運用監視コンポーネントおよびパフォーマンス収集コンポーネントの評価ライセンスが適用されます。評価ライセンスの有効期限が切れると、アドイン モジュールは機能を停止します。

- 運用監視コンポーネントとパフォーマンス収集コンポーネントで RTM コンポーネントと RTMA コンポーネントを使用するには、次のコマンドを実行します。

```
oalicense -set -type PERMANENT "HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU"
```

このコマンドにより、すべての HP Operations OS Inst Adv SW LTU の恒久ライセンスが HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU にアップグレードされ、RTM コンポーネントと

RTMA コンポーネントがノードで有効になります。評価ライセンスの有効期限が切れると、その他のアドイン モジュール (GlancePlus) は機能を停止します。

- HP Operations OS Inst Performance LTU のライセンスを有効にするには、次のコマンドを実行します。

```
oalicense -set -type PERMANENT "HP Operations OS Inst Performance LTU"
```

このコマンドにより、HPE Operations Agent のパフォーマンス収集コンポーネントの恒久ライセンスが適用されます。評価ライセンスの有効期限が切れると、運用監視コンポーネントおよびその他のアドイン モジュールは機能を停止します。

- On UNIX/Linux ノードのみ: Glance Pak Software LTU のライセンスを有効にするには、次のコマンドを実行します。

```
oalicense -set -type PERMANENT "Glance Pak Software LTU"
```

このコマンドにより、パフォーマンス収集コンポーネント、GlancePlus ソフトウェア、RTMA コンポーネントにのみ恒久ライセンスが適用されます。

- On UNIX/Linux ノードのみ: Glance Software LTU のライセンスを有効にするには、次のコマンドを実行します。

```
oalicense -set -type PERMANENT "Glance Software LTU"
```

このコマンドにより、GlancePlus ソフトウェアと RTMA コンポーネントにのみ恒久ライセンスがノードで適用されます。

4. ノードの LTU の詳細を確認するには、次のコマンドを実行します。

```
oalicense -get -all
```

このコマンドは、LTU の詳細を次の形式で表示します。

LICENSE NAME	TYPE	ACTIVATION	EXPIRY	EXTN
このコマンドは、次の詳細を表示します。				
LICENSE NAME: LTU の名前				
TYPE: LTU のタイプ (恒久、評価、延長)				
ACTIVATION: LTU が有効にされた日付 (mm/dd/yyyy 形式)				
EXPIRY: ライセンスの有効期限 (タイプが恒久でない場合)				
EXTN: 評価ライセンスの延長回数				

5. 次のコマンドで、ノード上のすべてのプロセスを起動します。

```
opcagt -start
```

必要に応じて、HPOM 管理環境にあるノードで、恒久ライセンスまたは評価ライセンスを有効にできます。評価ライセンスをノードで有効にするには、次のいずれかを実行します。

- ノードにローカルでログインし、次のコマンドを実行します。
`oalicense -set -type EVALUATION "<LTU_name>"`
- 複数のノードでツールを使用して評価ライセンスを有効にするには、次の手順を実行します。
 - a. HPOM 管理サーバーにログインします。
 - b. 次の詳細を指定して、新しいツールを作成します。
 - コマンド呼び出しまたはツール呼び出しを `oalicense` に設定します。
 - パラメータを次のように設定します。
`-set -type EVALUATION "<LTU_name>"`
 - 選択したノードにターゲットを設定します。
 - c. 目的のノードにツールを実行します。

ライセンスの詳細の例

`oalicense` コマンドに `-get` オプションを使用すると、ノードにある LTU の詳細を表示できます。`-get` オプションに `-all` オプションを使用すると、ノードにあるすべての LTU の詳細を表示できます。または、引数に LTU 名を指定して、ノードにある特定の LTU の詳細を表示できます。

恒久タイプの HP Operations OS Inst Adv SW LTU が有効になっている場合、`oalicense -get "HP Operations OS Inst Adv SW LTU"` コマンドを実行すると、次のメッセージが表示されます。

LICENSE NAME	TYPE	ACTIVATION	EXPIRY	EXTN
HP Operations OS Inst Adv SW LTU	PERMANENT	09/08/2012	11/08/2012	N/A

管理サーバーからの一括適用

HPE Operations Agent を HPOM 管理サーバーからリモートでノードにインストールしたり、管理サーバーの詳細を指定して手動でノードにインストールしたりする場合、評価ライセンスまたは恒久ライセンスを設定する必要があります。異なるタイプのライセンスをノードで有効にする場合、追加の手順を実行する必要があります。

HPOM for Windows コンソールからの適用

ノードでデフォルトの LTU 以外の LTU を有効にする場合、次の手順を実行します。

1. HPOM 管理サーバーにログオンします。
2. コンソールツリーで **[ツール]** を展開し、次に **[HP Operations Agent]** をクリックします。HPE Operations Agent 12.01 配布パッケージで使用可能なツールのリストが詳細ペインに表示されます。
3. HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU の恒久ライセンスを有効にするノードで、Set Realtime Permanent License ツールを起動します。
4. Glance Software LTU の恒久ライセンスを有効にするノードで、Set Glance Permanent License ツールを起動します。
5. ライセンスを適用するためにツールを起動したら、Restart Agent ツールを起動して、すべてのノードで必要なプロセスを開始する必要があります。

UNIX/Linux 9.xx の HPOM コンソールからの適用

デフォルトの LTU 以外の LTU をノードで有効にするには、oalicense コマンドをノード (またはノードのグループ) で実行するツールを作成する必要があります。新しいツールを作成するには、次の手順を実行します。

1. HPOM 操作 UI にログオンします。
2. 左のペインで、ライセンスを適用するノードまたはノードグループを選択します。
3. HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU の恒久ライセンスを有効にするには、右クリックして、**[スタート] > [HP Operations-agent] > [Set Realtime Permanent License]** の順にクリックします。
4. Glance Software LTU の恒久ライセンスを有効にするには、右クリックして、**[スタート] > [HP Operations-agent] > [Set Glance Permanent License]** をクリックします。
5. Restart Agent ツールを起動して、すべてのノードで必要なプロセスを開始します。

HPOM for UNIX 8.35 コンソールからの適用

デフォルトの LTU 以外の LTU をノードで有効にするには、oalicense コマンドをノード (またはノードのグループ) で実行するアプリケーション (ツール) を作成する必要があります。新しいツールを作成するには、次の手順を実行します。

1. HPOM for UNIX サーバーにログオンします。
2. HPOM for UNIX コンソールにログオンします。
3. **[OVO 登録アプリケーション]** ウィンドウに進みます。
4. **[アクション] > [アプリケーション] > [OVO アプリケーションの追加]** の順にクリックします。**[OVO アプリケーションの追加]** ダイアログボックスが表示されます。
5. **[OVO アプリケーションの追加]** ダイアログボックスで、次の詳細を指定します。

- [アプリケーション名] ボックスに名前を指定します。
- [アプリケーション呼出] ボックスに `oalicense` と入力します。
- [追加パラメータ] ボックスで、`-set -type PERMANENT "HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU"` と入力して、HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU を有効にします。`-set -type PERMANENT "Glance Software LTU"` と入力して、Glance Software LTU を有効にします。
- [オペレータが選択したターゲット ノードで起動] オプションを選択します。
- [実行時のユーザー] セクションで、ノードで HPE Operations Agent を実行しているユーザーのユーザー名とパスワードを指定します。
- [表示] を **[Window (出力のみ)]** に設定します。

6. **[OK]** をクリックします。

これで、HPOM for UNIX コンソールからアプリケーションを起動できます。ノードでアプリケーションを実行したら、`opcagt -start` コマンドを実行して、必要なプロセスをすべてのノードで起動する必要があります。

評価ライセンスの有効期限の延長

評価ライセンスの有効期限は、60 日間ごとに延長することができます。評価ライセンスの有効期限は 2 回延長できるため、最大 180 日間製品を評価することができます。

評価ライセンスの有効期限を延長するには、次の手順を実行します。

1. 管理者権限または root 権限でログオンします。
2. 次のいずれかの手順を実行します。
 - Windows の場合
以下の場所に移動します。`%ovinstalldir%bin`
 - HP-UX、Linux、Solaris の場合
以下の場所に移動します。`/opt/OV/bin`
 - AIX の場合
以下の場所に移動します。`/usr/lpp/OV/bin`
3. 評価 LTU の状態を確認するには、次のコマンドを実行します。
Windows の場合
`oalicense -get -all`
UNIX/Linux の場合
`./oalicense -get -all`

このコマンドにより、システムで有効になっているすべてのLTUの詳細が表示されます。これには、すべての評価ライセンスの状態も含まれます。このコマンドは、詳細を次の形式で表示します。

LICENSE NAME	TYPE	ACTIVATION	EXPIRY	EXTN
<LTU_Name>	EVALUATION	<Installation_Date>	<Expiry_Date>	0

評価期限を過ぎても使用する評価LTUを書き留めます。

- オプション: コマンドの出力を確認し、(延長する) 評価LTUが60日近く使用されていることを確認します。

注: インストールから60日間経過していない評価LTUの有効期限を延長する場合、最初の60日の有効期限が実際に終了するまでの残りの日数は破棄されます。評価LTUを延長した日から開始してさらに60日間だけLTUを中断することなく使用できます。ただし、評価LTUの有効期限は2回延長できるため、さらにもう60日間評価製品を使用することができます。

- 次のコマンドを実行します。

Windows の場合

```
oalicense -extend -type EVALUATION "<LTU 名>"
```

UNIX/Linux の場合

```
./oalicense -extend -type EVALUATION "<LTU 名>"
```

ここで、

<LTU_Name> はLTUの名前です。

- 評価LTUの状態を確認するには、次のコマンドを実行します。

Windows の場合

```
oalicense -get -all
```

UNIX/Linux の場合

```
./oalicense -get -all
```

このコマンドは、詳細を次の形式で表示します。

LICENSE NAME	TYPE	ACTIVATION	EXPIRY	EXTN
<LTU_Name>	EVALUATION	<Installation_Date>	<Expiry_Date>	1

LTUの有効期限が、元の有効期限よりも60日間延長されたことがわかります。EXTN列は、LTUの延長回数を示します。

例

インストール後に `oalicense -get -all` コマンドを実行すると、有効になっている LTU のリストが次の形式で表示されます。

LICENSE NAME	TYPE	ACTIVATION	EXPIRY	EXTN
HP Operations OS Instance Software LTU	EVALUATION	03/Jun/2012	02/Aug/2012	0
HP Glance OS Instance LTU	EVALUATION	03/Jun/2012	02/Aug/2012	0
HP Operations Real-Time UpG OS Instance Software LTU	EVALUATION	03/Jun/2012	02/Aug/2012	0

インストール後に HP Operations OS Instance Software LTU を 60 日延長して `oalicense -get -all` コマンドを実行すると、次の出力が表示されます。

LICENSE NAME	TYPE	ACTIVATION	EXPIRY	EXTN
HP Operations OS Instance Software LTU	EVALUATION	03/Jun/2012	02/Oct/2012	1
HP Glance OS Instance LTU	EVALUATION	03/Jun/2012	02/Aug/2012	0
HP Operations Real-Time UpG OS Instance Software LTU	EVALUATION	03/Jun/2012	02/Aug/2012	0

アラートの生成

`oalicense` コマンドに `-expiryAlerts` オプションを使用すると、評価ライセンスが有効な日数を表示できます。

`ALERT_LTU_EXPIRY_DAYS` 変数を使用すると、HPE Operations Agent から HPOM メッセージ ブラウザにアラート メッセージを送信して、ノードで有効になっている評価エージェントの有効期限に関する詳細情報を通知するよう設定することができます。

この変数を設定するときには、3つの整数値をカンマで区切って降順で指定する必要があります。

たとえば、次のようになります。

```
ovconfchg -ns eaagt -set ALERT_LTU_EXPIRY_DAYS DAY1,DAY2,DAY3
```

アラートメッセージは、評価 LTU の有効期限が切れる DAY1、DAY2、DAY3 日前に HPOM コンソールに受信されます。

デフォルトでは、この変数は 7、3、1 に設定されます。

第5章：HPE Operations Agent 12.01 へのアップグレード

次のいずれかの製品または製品の組み合わせを、HPE Operations Agent 12.01 にアップグレードできます。

- HPE Operations Agent
- HP Performance Agent
- HP GlancePlus

アップグレードを実行後、古い LTU は自動的に HPE Operations Agent LTU にアップグレードされます。ライセンスメカニズムは、古い製品に使用されている古い LTU を自動的に検出し、新しい LTU にアップグレードします。

表 4 は、古い LTU と新しい LTU の対応表です。

表 4: 自動 LTU アップグレード

古い LTU	使用可能な製品または機能	新しい LTU	使用可能な製品または機能
GlancePlus LTU	HP GlancePlus	Glance Software LTU	<ul style="list-style-type: none">• HP GlancePlus• RTM• RTMA
Performance Agent LTU	HP Performance Agent	HP Operations OS Inst Performance LTU	パフォーマンス収集コンポーネント
Glance Pak Software LTU	<ul style="list-style-type: none">• HP Performance Agent• HP GlancePlus	Glance Pak Software LTU	<ul style="list-style-type: none">• パフォーマンス収集コンポーネント• RTM• RTMA• HP GlancePlus
Operations Agent LTU	HPE Operations Agent	HP Operations OS Inst Adv SW LTU	<ul style="list-style-type: none">• 運用監視コンポーネント• パフォーマンス収集コンポーネント
OpsPerf Combo LTU	<ul style="list-style-type: none">• HPE Operations	HP Operations OS Inst Adv SW LTU	<ul style="list-style-type: none">• 運用監視コンポーネント

表 4: 自動 LTU アップグレード (続き)

古い LTU	使用可能な製品 または機能	新しい LTU	使用可能な製品ま たは機能
	Agent <ul style="list-style-type: none">• HP Performance Agent		<ul style="list-style-type: none">• パフォーマンス収 集コンポーネント

LTU の自動アップグレード後、oalicense ツールを使用して、異なる LTU をノードで適用することができます。

注: HPOM コンソールからリモートでエージェントをインストールして HPE Operations Agent 12.01 にアップグレードする場合、HP Operations OS Inst Adv SW LTU (恒久) がノードで有効になります。

第6章: 恒久ライセンスの削除

恒久ライセンスをノードから削除するには、次の手順を実行します。

1. 恒久ライセンスが有効になっているノードにログオンします。
2. コマンド プロンプト (シェル) を開きます。
3. 次のコマンドを実行します。

```
oalicense -remove -type PERMANENT <LTU>
```

ここで、<LTU> は LTU の名前です。

このコマンドにより、ノードにある指定した LTU の恒久ライセンスが無効になります。LTU で有効にしたコンポーネントを再度使用するには、oalicense コマンドを使用して、LTU の評価ライセンスまたは恒久ライセンスをノードで有効にする必要があります。

または、すべての恒久 LTU を削除するには、次のコマンドを実行します。

```
oalicense -remove -type PERMANENT -all
```

4. 次のコマンドを実行して、すべてのエージェント プロセスを起動します。

```
opcagt -start
```

第7章: 既存のLTUの変更

oalicense コマンドを使用すると、既存のLTUを別のLTUに変更できます。複数のLTUを同じノードに適用できます。HPE Operations Agent 12.01 にノードをアップグレードすると、アップグレード プロセスは自動的にLTUをアップグレードします。ただし、この場合、ノードでRTMコンポーネントまたはRTMAコンポーネントを有効にするには、oalicense ツールを使用する必要があります。

例 1

HP Operations OS Inst Adv SW LTU から HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU への変更

HPE Operations Agent 12.01 を HPOM コンソールからインストールする場合、ライセンスのタイプを HP Operations OS Inst Adv SW LTU に設定します。RTMコンポーネントまたはRTMAコンポーネントを使用する場合、HP Operations OS Inst Adv SW LTU を HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU に変更する必要があります。HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU に変更するには、次の手順を実行します。

1. HPE Operations Agentのインストール後、ノードで次のコマンドを実行し、既存のLTUを表示します。
`oalicense -get -all`

2. 次のコマンドで、HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU を適用します。
`oalicense -set -type PERMANENT "HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU"`

このコマンドにより、LTU が HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU にアップグレードされます。その結果、HPE Operations AgentでRTMコンポーネントとRTMAコンポーネントを使用できます。

例 2

Glance Software LTU から Glance Pak Software LTU への変更

UNIX/Linux ノードのみ。HP GlancePlus の古いバージョンから HPE Operations Agent 12.01 にアップグレードする場合、LTU は自動的に Glance Software LTU にアップグレードされます。HP GlancePlus 12.01 と共に HPE Operations Agent 12.01 の機能を使用する場合、次の手順を実行します。

1. HPE Operations Agent 12.01 へのアップグレード後、ノードで次のコマンドを実行し、既存のLTUを表示します。

```
oalicense -get -all
```

このコマンドは Glance Software LTU のリストのみを表示します。

2. 次のコマンドで、Glance Pak Software LTU を適用します。

```
oalicense -set -type PERMANENT "Glance Pak Software LTU"
```

このコマンドにより、Glance Pak Software LTU が有効になります。

3. 次のコマンドで、LTU のリストを表示します。

```
oalicense -get -all
```

このコマンドにより、次の LTU のリストが表示されます。Glance Software LTU と Glance Pak Software LTU です。

4. Glance Pak Software LTU は、HP GlancePlus 12.01 の機能をパフォーマンス収集コンポーネントに統合するため、Glance Software LTU を削除できます。Glance Software LTU を削除するには、次のコマンドを実行します。

```
oalicense -remove -type PERMANENT "Glance Software LTU"
```


ドキュメントのフィードバックを送信

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールでドキュメント制作チームまでご連絡ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

ライセンスガイド (Operations Agent 12.01) に関するフィードバック

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信] をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、docfeedback@hpe.com 宛にお送りください。

お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。